

## ヒメアシハラガニモドキ *Neosarmatium indicum* (A. Milne-Edwards, 1868) の奄美大島における初記録

鈴木廣志<sup>1</sup>・米沢俊彦<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

<sup>2</sup> 〒 891-0132 鹿児島市七ツ島 1-1-5 一般財団法人 鹿児島県環境技術協会

### ■ はじめに

奄美大島における甲殻十脚類に関する研究は、1963年の上田による淡水産エビ類に関する研究に始まり、その後汽水—陸水域の甲殻類相(諸喜田, 1975, 1979, 1989; 武田, 1989a; Shokita & Nishijima, 1976; 鈴木ほか, 2015a, b; 三浦・三浦, 2015)や大島海峡の海産異尾類相ならびに短尾類相(Baba, 1989; Takeda, 1989b)が明らかにされた。さらに、近年になるとマングローブの潮間帯や飛沫転石帯において小型種や希少種の生息も報告されるにいたった(岸野ほか, 2001a, b; 野元ほか, 2002; 鈴木ほか, 2008)。

このような中、第2著者である米沢は、昨年本島中部に位置する住用川・役勝川河口域周辺の河岸堤や止水池の堤において、ヒメアシハラガニモドキ *Neosarmatium indicum* の生息している事を確認した。その後、2015年9月26日に当該地点でオス1個体を採集したので、ここに報告する次第である。調査にあたっては当該個体群の攪乱を最小限とするために、証拠標本として1個体のみ採集した。また、採集した標本は鹿児島大学総合研究博物館に登録保存した(KAUM-AT-212)。

### ■ 結果と考察

ヒメアシハラガニモドキ *Neosarmatium indicum* (A. Milne-Edwards, 1868)の形態: イワガニ上科ペンケイガニ科に属するヒメアシハラガニモドキは、小型の種類で、最大甲幅は25 mm前後である。今回採集した個体は雄で(図1)、甲幅17.8 mm、甲長14.0 mmであった。甲の背面は強く膨らみ、無毛で平滑である。前側縁は眼窩外歯を含めて2歯が明瞭であり、第3歯は痕跡的で、その後方は弱くくびれている。ハサミ脚はほぼ左右同大で、掌部上面には内面と外面を隔てる弱い肋があり、その他に可動指基部の近くから掌部基部に向けて、低い幅広い隆起がある。可動指上縁には、明瞭な2歯がある(図2)。

甲の背面は紫がかかった暗色で、後半部に白い斑紋がある。ハサミ脚は腕節からハサミ部にかけて鮮やかな赤色を呈する。歩脚の長節は青白い地色に紫の細かい斑紋を有する(図1)。



図1. ヒメアシハラガニモドキのオス背面。

Suzuki, H. and T. Yonezawa. 2016. On the new record of *Neosarmatium indicum* in Amami-Oshima Island, Kagoshima Prefecture. Nature of Kagoshima 42: 453-455.

☑ HS: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: suzuki@fish.kagoshima-u.ac.jp).



図2. ヒメアシハラガニモドキのハサミ脚部分.



図3. ヒメアシハラガニモドキの生息地の概観. オキナワアナジャコの巣塚が散見する.



図4. 巣穴入口に居て様子をうかがうヒメアシハラガニモドキ.

生息域：本種が生息していたのは、住用川・役勝川河口域左岸の内陸部に位置する側溝の土手の上部で、オキナワアナジャコの巣塚が散見する場所に造られた巣穴であった（図3, 4）。本種が巣穴入口に居ると、その鮮やかな赤色のハサミ脚が良く目に付いた。この土手の内側には畑が作られており、生息地はかなり乾いた泥質の基質と考えられた。

本種の生息地周辺には、他に、クロベンケイ



図5. オキナワアナジャコの巣塚頂上の入り口に居るクロベンケイガニ.



図6. 巣穴入口に居るフタバカクガニ.

ガニ *Chiromantes dehaani* (H. Milne-Edwards, 1853), フタバカクガニ *Perisesarma bidens* (De Haan, 1835), ハマガニ *Chasmagnathus convexus* De Haan, 1835, ベンケイガニ *Sesarmops intermedium* (De Haan, 1835) などが生息していた（図5-8）。

生息状況：本種は用心深く、近づくとすぐに巣穴に入り込んで、なかなか出てこないで、その詳細な生息状況は把握できなかった。ただ、周辺に生息するクロベンケイガニなどの生息状況から判断すると、極めて少ないと考えられる。今後正確な生息数の調査が必要であろう。また、奄美大島には、住用川・役勝川以外にも川内川や河内川など比較的大きく、まだ泥質の堤が残っている河川もいくつか存在する。本種がこれら河口域の乾燥した泥底質の地域に生息する可能性は十分考えられる。しかし、残念ながら奄美大島全域における生息状況は、現時点では十分把握されていない。河口域河岸は、治水事業の一環としての護岸



図7. オキナワアナジャコの巣塚の出入りに居るハマガニ。



図8. ヒメアシハラガニモドキの生息地で同所的に見られるベンケイガニ。

工事等が行われる場所で、これらの人工河岸は本種をはじめとする多くの半陸生カニ類の生息環境を消失させる可能性がある。このため、早急な現状調査が必要である。

本種は、国内では沖縄島と西表島から報告されているのみで、国外では沖縄諸島以南の西部太平洋地域に分布すると報告されている(長井ほか, 2011)。従って、今回の奄美大島での生息確認はその北限域を大きく更新することとなった。今後は生息分布調査に加え、個体群の維持が行われているか等を明らかにするために個体群生態学的調査も必要であろう。

## 引用文献

- Baba, K., 1989. Anomuran crustaceans obtained by dredging from Oshima Strait, Amami-Oshima of the Ryukyu Islands, *Memoirs of the National Science Museum*, 22: 127-134.
- 上田常一, 1963. 奄美大島・屋久島・種子島の淡水エビ類, *島根大学論集 (自然科学)*, 13: 1-28.
- 岸野 底・米沢俊彦・野元彰人・木邑聡美・和田恵次, 2001a. 奄美大島から記録された汽水産希少カニ類12種, *南紀生物*, 43(1): 15-22.
- 岸野 底・野元彰人・木邑聡美・米沢俊彦・和田恵次, 2001b. 奄美大島の汽水産カニ類, *南紀生物*, 43(2): 125-131.
- 三浦知之・三浦 要, 2015. 加計呂麻島の海岸湿地に生息する甲殻類と貝類の記録, *Nature of Kagoshima*, 41: 209-222.
- 長井 隆・成瀬 貫・前之園唯史・藤田喜久・駒井智幸, 2011. 琉球列島におけるアシハラガニモドキ属とその近似属(甲殻亜門:十脚目:短尾下目)の種の再検討と分布状況, *沖縄生物学会誌*, 49: 15-36.
- 野元彰人・岸野 底・鈴木廣志, 2002. トリウミアカイソモドキ(イワガニ科)の日本における南限記録, *南紀生物*, 44(1): 56-58.
- 鮫島正道, 1995. 東洋のガラバゴス — 奄美の自然と生き物たち —, 南日本新聞社, 177 pp.
- 諸喜田茂充, 1975. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—I, *琉球大学理工学部紀要*, 18: 115-136.
- 諸喜田茂充, 1979. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について—II, *琉球大学理工学部紀要*, 28: 193-278.
- 諸喜田茂充, 1989. 奄美大島産の陸水産エビ類相と分布, *環境庁自然保護局編, 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究 昭和63年度奄美大島調査報告書*: 267-275.
- Shokita, S. and S. Nishijima, 1976. Faunal list of inland-water malacostraca of Amami group, the Ryukyu Islands. *Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands*, 2: 31-38.
- 鈴木廣志・藤田喜久・組坂遵治・永江万作・松岡卓司, 2008. 希少カニ類3種の奄美大島における初記録, *Cancer*, 17: 5-7.
- 鈴木廣志・勝 廣光・常田 守, 2015a. シモフリシオマネキの奄美大島における初記録, *Nature of Kagoshima*, 41: 187-189.
- 鈴木廣志・大元一樹・光木愛理, 2015b. テナガエビ科スジエビの奄美大島における初記録, *Nature of Kagoshima*, 41: 191-193.
- 武田正倫, 1989a. 奄美大島産の陸水性カニ類, *環境庁自然保護局編, 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究 昭和63年度奄美大島調査報告書*: 277-285.
- Takeda, M., 1989b. Shallow-water crabs from the Oshima Passage between Amami-Oshima and Kakeroma-jima Islands, the northern Ryukyu Islands, *Memoirs of the National Science Museum*, 22: 135-184, pls. 4.